

◆ 食品中のシアン化物について（「食品安全情報」から抜粋・編集）

－WHO&FAO（2011年6月～2015年12月）－

「食品安全情報」（<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>）に掲載した記事の中から、食品中のシアン化物についての記事を抜粋・編集したものです。

他の地域/機関の情報については下記サイトをご参照下さい。

「食品安全情報（化学物質）」のトピックス

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/chemical/index-topics.html>

公表機関ごとに古い記事から順に掲載しています。

- 世界保健機関（WHO：The World Health Organization）
- 国連食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations）

記事のリンク先が変更されている場合もありますので、ご注意ください。

● 世界保健機関 (WHO : The World Health Organization)

1. 世界の食品由来疾患実被害

Global burden of foodborne diseases

http://www.who.int/foodsafety/areas_work/foodborne-diseases/ferg/en/

「食品安全情報」 No.25 (2015)

2015年12月3日、WHOの食品由来疾患実被害疫学リファレンスグループ(FERG)が食品由来疾患による世界的な実被害を推定した報告書「WHO estimates of the global burden of foodborne diseases」がWHOウェブサイトで公表された。また、31の要因別(細菌、ウイルス、寄生虫、毒素及び化学物質)に地域レベル、世界レベルでの実被害を確認できるオンラインツールも提供している。

毒素及び化学物質のうち今回はアフラトキシン、キャッサバのシアン、ピーナッツアレルギー(地域限定)及びダイオキシンについて検討しており、ヒ素、カドミウム、鉛及びメチル水銀については保留とした。これらは、健康影響の重篤度、暴露率、推定のためのデータの入手可能性に基づき選択した。今回検討した毒素及び化学物質による総合の障害調整生存年(DALYs)の中央値(2010年)は908,356であり、その大部分はアフラトキシン(肝細胞がんとの関連)に起因している。(注:下痢症要因の総合DALYsは17,659,226、そのうちノロウイルスは2,496,078、細菌は14,490,808であり毒素及び化学物質と比較すると桁違いに大きい)

* オンラインツール

https://extranet.who.int/sree/Reports?op=vs&path=/WHO_HQ_Reports/G36/PROD/EXT/FoodborneDiseaseBurden

● 国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)

1. JECFA 74 回会合 要約と結論

JOINT FAO/WHO EXPERT COMMITTEE ON FOOD ADDITIVES

Seventy-fourth meeting Rome, 14–23 June 2011

SUMMARY AND CONCLUSIONS

Issued 4 July 2011

ftp://ftp.fao.org/ag/agn/jecfa/JECFA_74_Summary_Report_4July2011.pdf

「食品安全情報」 No.14 (2011)

青酸配糖体

ARfD : 0.09 mg/kg 体重 (シアン化物として)
PMTDI : 0.02 mg/kg 体重 (シアン化物として)

最終更新： 2022 年 10 月

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部

食品安全情報ページ (<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/index.html>)